

平成23年度第2回・熊本市行財政改革推進委員会 議事録（要旨）

1 日 時

平成24年2月10日（金） 午前10時から午後12時まで

2 場 所

熊本市役所 庁舎4階モニター室

3 出席委員（敬称略、順不同）7名

明石照久（会長）、益田加代子（副会長）、野村豊、坂口真理、那須保、岩淵泰、杉内昭夫

※欠席委員

坂口美由紀

4 配布資料

- ・資料1 行財政改革計画の進捗状況について
- ・資料2 財政指標の状況について

5 次第

（1）開会

（2）副市長挨拶

（3）会長挨拶

（4）議事

議題1 行財政改革計画の進捗状況について

議題2 財政指標の状況について

（5）その他

（6）閉会

## 6 議事録（要旨）

明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題の行財政改革計画の進捗状況について、事務局より説明願いたい。</li> </ul>
行政経営課総務審議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1に基づいて説明。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいまの説明にご意見等ないか。</li> </ul>
那須委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要望だが、指定管理者制度について、働く人の労働条件を確保しないと次の指定管理者には指定しないなど規定を入れてほしい。</li> </ul>
野村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム56 バス運行助成事業の見直しについて、代替交通手段として乗り合いタクシーに変わったということだが、新聞でも紹介されたように、住民から使い勝手がよくない、高齢者が予約するのは困難、事前の予約が面倒という意見があった。バスのときと比べて利用者が減ってきたという話もあるので、今の形態が住民のための公共交通か見直して、交通が不便な地域の住民の声を聞いて対応してほしい。住む場所を変えようかという声も出るくらいなので、日本一暮らしやすいまちづくりという点からも住民の意見をもっと聞いてほしい。</li> <li>・政令市移行に伴い区民会議を検討されていたが、昨年12月議会で時期尚早、行政、議会との関係、位置づけが明確でないなどの理由で否決された。新たなまちづくりを考えるための期待される組織なので、組織の目的、役割、内容、運営方法など、行政側が立案するのではなく住民を含めて審議する会議体を設けるべきではないか。区のまちづくりを住民と一緒にしていくようなプログラムを考えてはどうか。</li> </ul>
坂口(真)委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム12の消費者行政の充実について、消費生活条例が今年6月に施行される予定であるが、周知を徹底してほしい。また、条例を作っても運用されないと意味がないので、ぜひ広く運用していただきたい。</li> <li>・区役所単位で相談窓口を置いてほしい。現在、消費者相談は5,000件程ある。体の不自由な方など市役所まで行くのが難しい方もいるため、配慮してほしい。</li> <li>・北九州市では、区役所単位で消費者生活相談窓口がある。熊本市も政令指定都市になるので、きめ細かく区役所単位でも相談できるよう充実を図ってほしい。</li> </ul>

杉内委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画目標の達成状況について、効果的かつ効率的に市政が運営されていると感じる市民の割合が基準値から実績が下がっているが、どうい質問の仕方をしているのか。</li> <li>・プログラムの実施状況について、検討・準備のプログラム数が約3分の1あるので、できるだけ早く実施してほしい。</li> </ul>
行政経営課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼できる市政と感じる市民の割合について、市民アンケートの調査項目で、「あなたは熊本市政が信頼できると感じますか」という設問である。それに対して、「とても感じる、やや感じる、どちらともいえない、あまり感じない、全く感じない」という選択肢で回答いただいている。結果は、「とても感じる」7.4%、「やや感じる」34%、「どちらともいえない」20.5%となっており、中間層が多くこれで7割5分ぐらい占めている。なお、「全く感じない」が14%である。</li> <li>・効果的かつ効率的に市政が運営されていると感じる市民の割合については、「あなたは熊本市の行財政が効果的かつ効率的に運営されていると感じますか」という設問である。22年度の回答は「とても感じる」3.3%、「やや感じる」19.6%、一番多いのが「どちらともいえない」で48.6%、「全く感じない」は21.5%であり、どちらともいえない、判断できないという層が多くなっている。なかなか市民の方には効率的かつ効果的という判断基準が難しく、質問の仕方も答えづらいものになっているかと思う。</li> <li>・プログラムの実施状況については、現在54プログラムは実施しているが、残る21プログラムは今後2年間で検討・準備を速やかに済ませ、着手し実施と目標を達成するようにスピード感をもってやっていきたい。</li> </ul>
杉内委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の達成状況というが、市民の感情だけの答えになってしまっている。計画目標の達成状況をこういうアンケートでとっているという割には全くの感情主観であり、具体的な事象で答えてもらわないとデータのにはあまり意味がない。アンケートの数値は設計自体で変わってしまう。上手に設問をつくると数値も変わるので今後アンケートを作るときに気をつけてほしい。</li> </ul>
益田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム4新しい公共の推進について、平成24年4月から始まる市民公益活動支援基金制度に非常に期待している。</li> <li>・市民活動団体というが、仕事としてまちづくりに関わる人達、ボランティアで活動している人達などどういう方達をまちづくりの団体と考えているのか。市と一緒にまちづくりをする団体はどのように選んでいるのか。仕事としている団体はスピード感もあるし継続</li> </ul>

	<p>性もあるが、ボランティアで活動している団体は、継続性が不安定だったり、力が不足するところもある。4月から始まる基金制度はこのような団体の両面を見て平等に取り扱ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの事業をみていると、同じ団体が選ばれていることが多い。この団体なら大丈夫ということであらかじめそこに決めて動いている傾向もあるのではないか。予算がもらえる事業は市政日より情報提供するなど広く周知する方法をとってほしい。</li> <li>• 校区で考えるべきことだが、校区には何百世帯もある町内と何十世帯しかない町内など、ばらつきがありきめ細やかな対応が難しい。自治会をいくつに編成するかなど検討はするが、精通する人が少なく判断が難しい。政令市に移行した際は、行政から自治会はこういう構成が望ましいなど提案してもらえれば、校区でもそれに近づけるような話し合いができる。何もないとところで任せられると動きにくいし、変わりにくい。</li> <li>• 例えば、危ない箇所に信号が欲しいと要望してもなかなか叶わない。最後は自治会長の了承がないといけない。こういうところにはこうした方がいいなどモデル的なものがあれば近づけていけるので、行政が担ってもらえればと思う。</li> </ul>
岩淵委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 校区自治協議会について、これから校区をまたぐような問題が出てきたときにもしっかりサポートしてもらいたい。</li> <li>• 上越市を視察に行った際、まちづくりを行うNPOが考えた案で、市民がこのプログラムにどのくらいお金がかかるかを考えながら企画書を作り提示をするというものがあった。実際にいくらかかるのかなかなか分からないので、企画書をつくる段階で市の方と一緒に考える仕組みであった。熊本市もこのような仕組みがあればいいと思う。</li> </ul>
行政経営課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• チャレンジ協働事業として、市民からテーマをいただき、予算50万円程の中で一緒に協力して実施する仕組みがある。今後拡大し、費用対効果も含めて考えるように構築できればいいと思う。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料2 財政指標の状況について説明願いたい。</li> </ul>
財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料2に基づき、財政指標の状況について説明。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料2のご質問の前に、先ほど挙手のあった那須委員、質問をお願いします。</li> </ul>
那須委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 労働現場の実態改善につながる仕組みをお願いしたい。現在日本で</li> </ul>

	<p>は、解雇された、退職金が払えない、勝手に賃下げされたという労働事件が24万件ある。そのうち裁判などで解決するのは3%もない。残りの97%は泣き寝入りかうやむやにされるという実態。県では労働局と業者と労働安全衛生に違反したときはどうするかという情報交換をしていた。熊本市が政令市になったときに、そのような検討機関は考えられているのか。</p>
行政経営課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権限移譲の項目ではないので引継ぎはない。しかし指定管理者制度の継続、拡充を図っていくので、個々の労働条件の改善といった取り組みを研究させていただきたい。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど説明のあった資料2 財政指標の状況についてご質問、ご意見等はないか。</li> </ul>
那須委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人あたりの市債残高について、改善しているということではないのか。</li> </ul>
財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・22年度までの決算値で評価しているが、順調に改善している。</li> </ul>
那須委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市債残高を他の政令市と比べるとどうなのか。</li> </ul>
財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の政令市と比べるといい方だと思う。都市規模が大きいとかなりの都市機能を果たさなければならぬため、その分財政需要も大きくなり市債残高も増える。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本市の財政状況を客観的にみると悪い方ではないと思うが、政令市になって都市計画、福祉、環境など一元的、一体的に市として責任を果たしていかなければならぬため、新たな財政の問題が発生する。</li> <li>・政令指定都市の指定都市会でも、自分達の市だけでなく、広域全体を考えて母都市としての機能も果たさなければならぬため、過大な財政負担を強いられる割には税制上特別な措置が何もなく国に要望を出しているが、なかなか進展がないのが実情である。</li> </ul>
益田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回熊本城マラソンが近づいてきているが、経費は市でどのくらい賄い、収支はどうなるのか。また、ボランティアとして参加するが、説明会がまだない状況で心配である。</li> </ul>
財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の予算では市の負担額は8,500万円である。その他に各企業の協賛、拠出金をいただいております、収支については十分賄える。数</li> </ul>

益田委員	<p>千名のボランティアの協力をいただいている話だが、資金的な面では十分対応できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備については、各地域で若干の手間取りもあるのかと思う。</li> <li>・安全確保のためスコッチコーンを大量に購入すると聞いたが、保管はどうするのか。ねんりんピックの際に、花を植えたプランターがたくさんあったが、積んであるところもある。保管のことを考えると備品は借りるなど検討してほしい。</li> </ul>
財政課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算査定の段階で、できるだけ経費を抑えるように進めてきた。コーンなど備品についてもできるだけ費用がかからないように今まで使ったものの再活用やリースも考えている。今回全て購入するのではなく既存のものを活用し、今回購入しなければならないものは何度も使えるものを考えて対応している。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通して、市民の満足を得るために組織としてどう対応していくか、財政の問題も含めた市政運営の効率性、経済性、有効性をどう高めていくか、そのあたりについて精力的に計画を立てているように見受けられた。是非着実に実現してほしい。</li> <li>・委員からの意見にもあったが、区役所がどういう位置づけになるのかよく分からない。多くの市民もそう思っていると思う。市役所本庁と区役所の関係、例えば先ほど言われた消費生活相談の窓口、その他の行政サービスの窓口が本庁に残るのか、区役所になるのか。道路についても、県が管理している国道、県道の管理が市に移譲され、これまでと窓口が変わる。県からどういう仕事に移り、どこが窓口になるのか広報していく必要があると思う。住民票もその区役所に行かなければ取れないと思っている人もいる。そういった部分を整理し分かりやすくしてほしい。</li> <li>・身近な行政の窓口として5つの区が設置され、職員も配置されるので、市民から区役所ができてよかった、便利になったと言ってもらえるような体制にしてほしい。区役所職員の研修にも力をつくしてもらいたい。</li> <li>・「質の高い市政運営」について、アンケートで評価する場合、評価基準が感覚的なものは客観性が問われるので、アンケートの質問項目についても、ある程度数字で表せるようなものを考えるとだいぶ変わらと思う。先行政令市では実施しているところも多いので、参考にしてもらおうといいかと思う。</li> <li>・最後に、政令市に移行して優先順位からすると区や内部の機構を固めて、市民に知ってもらうことが第一歩だが、次のステップは広域行政、広域連携が非常に大事である。どこの政令市も、特に先発の</li> </ul>

	<p>政令市は府と市、県と市はあまり仲が良くないのでなかなか広域行政ができない。政令指定都市は100万人近い人口を要する地域の中核なので、熊本市の場合も72万人の熊本市民だけでなく、熊本大都市圏100万人を対象とし、県と周辺市町村との広域連携を図ってほしい。他の政令市でも調整する場として行政の協議会をつくっているところが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副市長の挨拶にもあったが、これからは都市間競争が激化する時代である。人口が減るといのが中枢管理機能などが充実して日本一暮らしやすいまちになれば、人口も増える可能性がある。また、都市間競争というのは国内だけではなく、世界各国大都市間でもある。九州の中核都市の一つとして熊本市を世界、特に東アジア、韓国、中国、シンガポールなどの中で、特色があり魅力あるまちにしていこうことを考えれば、ますます熊本市の重要性が高まっていくのではないかと感じた。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に何か質問はないか。</li> </ul>
那須委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の財政が良くなるためには税収増を図らなければならない。もっと企業誘致や企業の中身を濃くするように利益率の向上、製品開発の強化など市が主導的な役割を果たしてほしい。</li> <li>・また、そこに働く人達の労働条件について、意見を聞く仕組みを関係部署と連携して作って欲しい。</li> </ul>
明石会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年8月に発足以来、今回まで4回の審議を重ねてきたが、委員の任期満了を迎える。各委員に総括的な所感をお述べいただきたい。</li> </ul>
益田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な会議に出席させてもらいありがたく思っている。</li> <li>・地域、校区のあり方、役職兼務という問題がある。一人で地域や行政から役職を受け兼務するのは大変であるので、例えば代理出席も可能など次の人を育成するようにしてほしい。</li> <li>・広く住民の意見を聞いてくれる行政であってほしい。</li> </ul>
那須委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから政令市になるという時期に委員になれて感謝する。</li> <li>・今日説明を受けたがこれがスタートと位置づけこれから実現に向けて取り組んでいただきたい。</li> <li>・環境変化に対応できるように、決めたことだから変えないのではなく、必要があればすぐ変えていく変化即応型をお願いしたい。</li> </ul>
杉内委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間勉強させてもらいありがたく思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行財政改革とは効果がなかなか見えない。だから不断の努力と常に研鑽研磨していかざるをえない。その中でも、行財政とは限られたお金を限られたことに使うということできくつかの原則が必要だと思う。</li> <li>・一つは、新しいことをやる時は何かをやめるという原則に立たないと常に肥大してしまう。もう一つは、行政の運営にあたり、様々な団体の意見を聞くこと、それと同時に個人の意見を聞くことも重要である。先ほど益田委員の話にもあったが、自治会長の了承を得たからOKということに行政は陥りやすい。校区にもよるが、自治会長が自分の自治会を掌握しているとは限らない。様々な意見が出るので、会長だけの意見で決めたという場合もある。似たようなことが様々な団体との間でも起こりうるので、行政が陥りやすい一つの典型だと心して取り組んでほしい。</li> </ul>
野村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワハラや上下水道局のシステム開発遅延問題の対応について、表に出てくるまでに時間がかかっていることが気になった。</li> <li>・情報公開についても、新聞にも出ていたが法律相談報告書が全面黒塗りという状況である。熊本市は内部のことに対して後ろ向きではないかと感じた。政令市に向かうときに熊本市の体質が特に気になる。</li> <li>・市電のネットオークションは、特色あることで大事にしてほしい。行財政のコストにも関わってくるので非常によいと思う。</li> <li>・花火大会の中止は個人的にも残念で、市民からも残念という声や見直しを求める意見があったかと思うが、その意見をうまく市政の中に呼び込むことが必要であったのではないか。特に政令市は市民力が大事になる。市民の参画と協働という視点から市民を呼び込むことに努力をしてほしい。</li> </ul>
坂口(真)委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民として見えるところは、職員の笑顔での対応やスムーズな対応、丁寧に話を聞いてくれるなど、ここが目につくところだと思う。お金がかかるので職員は増やせないだろうが、お金がなくても職員のやる気さえあればできることがたくさんあると思う。</li> <li>・お金をかけなくてもぬくもりある対応で満足される場合もあるので、職員の方にはさらにぬくもりのある対応をしていただきたいと思う。</li> </ul>
岩淵委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政の話はハードのものからソフトのものに投資をしていくということだったかと思うが、環境や教育、アート、国際交流など生活の質に関わる場所はメリハリをつけてやってほしい。</li> <li>・競争の時代だが、政令市や他都市と連携できる部分は情報共有し、</li> </ul>



<p>明石会長</p>	<p>もっといいまちづくりを進めてほしい。まちづくりとは、市民がなぜまちづくりに取り組んだのかという背景を考えてもらうとよりよくなるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本一住みやすい政令指定都市として、高齢者や外国人、学生など熊本ならゆっくり暮らせるというようなまちになってほしい。</li> <li>・委員の皆様ありがとうございました。皆様にご協力いただき無事今日の日を迎えることができ、心より感謝を申し上げます。</li> <li>・政令市移行の節目の時期にこういう関わりを持たせてもらい勉強になった。</li> <li>・熊本市は今後、政令市に向けて区役所の創設、職員の配置など忙しいかと思うが、それを乗り越えて、日本一暮らしやすい政令市を目指してほしい。熊本に来て6年になるが、その条件は十分あると思う。豊かな自然、豊かな文化、豊かな人情と様々な資源がたくさんある地域だと思う。そういう資源を最大限活用し、東アジアをにらんだ上で選ばれるような暮らしやすいまちづくりに邁進してもらえればありがたいと思う次第である。</li> </ul> <p>これをもって会議を終了する。</p>
-------------	---